

各 位

会 社 名 株式会社サンオータス
 代表取締役社長 北 野 俊
 (J A S D A Q コード番号 : 7623)

問 い 合 せ 先
 常務取締役管理本部長 古 川 晴 男
 TEL(045)473-1211 (代表)

平成21年4月期第2四半期累計期間の業績予想との差異及び
 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年4月期第2四半期累計期間(平成20年5月1日～平成20年10月31日)の業績予想について、平成20年6月25日付当社「平成20年4月期決算短信」にて公表いたしました業績予想と、本日公表の平成21年4月期第2四半期累計期間の実績に差異が生じました。これと併せて、最近の業績動向も踏まえ、平成21年4月期通期(平成20年5月1日～平成21年4月30日)の業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成21年4月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異等

(1) 第2四半期累計期間(平成20年5月1日～平成20年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 公 表 予 想 (A)	17,900百万円	180百万円	160百万円	90百万円
実 績 値 (B)	18,845百万円	△174百万円	△175百万円	△191百万円
差 異 (B) - (A)	945百万円	△352百万円	△335百万円	△281百万円
差 異 率	5.3%	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成20年4月期中間)	17,779百万円	118百万円	127百万円	14百万円

(2) 差異が生じた理由

カーライフサポート事業部門のSS(サービスステーション)部門では、売上の大半を占める石油製品の販売数量は、国内販売数量が前年割れとなる中で、消費者のニーズにマッチした価格設定などによりほぼ計画通り推移し、前年同期を上回る販売数量を確保するとともに原油価格の急騰にともなう販売価格の上昇もあって、売上高は9,529百万円(前年同期比1,524百万円増加)と計画を約14億円上回りました。

カービジネス事業部門では、国内の新車販売台数が3年連続して前年割れとなった状況が示すとおり、自動車需要の後退に加え低燃費車志向などの影響も受けて、BMW車を中心とする3ブランドの輸入車販売も新車・中古車の販売が共に苦戦を強いられ、低調に推移いたしました。

また、BMW車のディーラー新車マージンの低下とディーラーインセンティブ付与基準の変更(年2回(6月と12月)から年1回(12月)へ変更)により、第2四半期連結累計期間に発生した約1億円のインセンティブを12月に計上することとなったことも加わって、売上高は9,106百万円(前年同期比465百万円減少)と計画を約5億円と大幅に下回る結果となりました。

不動産関連部門は、引き続き堅調に推移し、売上高は209百万円(前年同期比7百万円増加)で計画通りとなりました。

その結果、当第2四半期累計期間のグループの売上高は18,845百万円(前年同期比1,066百万円増加)となり、当初計画を945百万円上回りました。

一方、営業利益は、カーライフサポート部門ではSS間の価格競争は依然として激しく、仕入価格上昇分すべてを販売価格に転嫁することができない状態に終始し、利益面では厳しい状況下に置かれていましたが、仕入価格の上昇分の一部は販売価格の上昇に反映されたため、営業利益は計画を20百万円上回る123百万円を確保したものの前年同期比では28百万円の減益となりました。

カービジネス事業部門では、売上の未達成に加え、店舗の譲受及び新設などにもなう販売経費の増加もあり、計画を280百万円下回る営業損失180百万円(前年同期は営業利益68百万円計上)の計上を強いられました。

不動産関連部門の営業利益は、ほぼ計画通りの40百万円(前年同期比5百万円増加)となりましたが、グループ業績への影響は限定的でした。

以上により、当第2四半期累計期間におけるグループの営業利益は、利益率の低下、販売経費の増加及び前年度に引き続き「のれん」の償却負担も重なった結果174百万円(前年同期は118百万円の営業利益を計上)の損失計上を余儀なくされました。

経常利益は、借入金支払利息の増加などにより営業外支出が営業外収入を1百万円上回ったことにともない、175百万円の損失計上となりました。

当期純利益は、不採算店舗の減損等にもなう特別損失の計上と法人税等の減少などにより191百万円の損失計上となりました。

2. 平成21年4月期通期の連結業績予想の修正等

(1) 通期(平成20年5月1日～平成21年4月30日)の業績予想について

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	39,000百万円	410百万円	360百万円	200百万円
今回修正予想(B)	39,000百万円	70百万円	130百万円	55百万円
増減額(B)－(A)	0百万円	△340百万円	△230百万円	△145百万円
増減率	0.0%	△82.9%	△63.9%	△72.5%
(ご参考) 前期実績(平成20年4月期)	37,476百万円	477百万円	509百万円	286百万円

(2) 修正の理由

通期の連結業績見通しにつきましては、SS部門では季節的要因と原油価格の急落にともない石油製品需要が回復することが予想される一方、BMW車、フォード車及びジャガー車の販売は引き続き苦戦が予想されるため、第3四半期及び第4四半期の当初計画に到達するには厳しい経営環境にあります。BMW車新シリーズの販売促進や車検・整備受注等のキャンペーンを展開するなど各事業部門間のシナジー効果を発揮することにより消費者ニーズを掘り起こし業績に結びつけるとともに、グループを挙げて諸経費の削減等に取り組むなどの経営努力により計画を達成したいと考えますが、第2四半期累計期間の差異を解消することは極めて難しいとの状況判断から、通期の業績予想を修正するものです。

売上高については、第2四半期累計期間では、ガソリン販売価格の急激な上昇を要因とした増加がありましたが、9月以降のガソリン価格の急落が、通期の売上高にマイナスの影響を及ぼす可能性が高いとの判断により修正はいたしません。すなわち、カーライフサポート部門は19,000百万円、カービジネス部門は19,600百万円、不動産関連部門は400百万円を見込んでおります。

従って、通期の業績予想の修正は、主に第2四半期累計期間の差異に起因する修正であります。

なお、連結業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、今後様々な要因によって実際の連結業績は予想数値と異なる場合があります。

3. 平成21年4月期第2四半期累計期間の個別業績予想と実績との差異等

(1) 第2四半期累計期間(平成20年5月1日～平成20年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	9,400百万円	50百万円	120百万円	60百万円
実績値(B)	10,859百万円	△64百万円	42百万円	8百万円
差異(B)－(A)	1,459百万円	△114百万円	△78百万円	△52百万円
差異率	15.5%	－	△65.0%	△86.7%

(2) 差異が生じた理由

個別業績については、SS部門では売り上げの大半を占める石油製品の販売数量が国内販売数量では前年割れとなる中で、マーケットのニーズに適応した販売価格の設定などの営業努力により、販売数量は前年同期の水準を上回り、販売価格の上昇もあって、売上高は計画を約1,500百万円上回る8,952百万円となりました。

しかしながら、利益面においては、ガソリンの仕入れ価格が毎月上昇する一方SS間の価格競争は熾烈で仕入れ価格上昇分を販売価格に転嫁することが困難な状況にあったことにより粗利益率の低下を余儀なくされたことに加えて、輸入車販売部門ではフォード車の販売が新型車種の供給が無かったこと及び消費者の志向が低燃費車種へシフトしたこと等により、売上高は当初計画を123百万円下回り、利益面においても損失を計上する結果となりました。

また、レンタカー部門では、横浜市内に3店舗を新設し拠点数を14店舗に拡充するとともに保有車両台数も1,200台を超えて、当社の中核事業に成長しましたが、売上高はほぼ計画通りの741百万円と他部門の不振を補うまでには至りませんでした。

このような状況のもと、売上高は10,859百万円と計画を上回りましたが、上記要因及び諸経費の上昇も加わり、64百万円の営業損失を計上する結果となりました。経常利益は、子会社からの配当収入などがあり、42百万円を計上しましたが、計画に対しては大幅な差異が生じました。

不採算店舗の減損等にもなう特別損失を計上した結果、第2四半期累計期間の純利益も当初計画を大きく下回る8百万円となりました。

4. 平成21年4月期通期の個別業績予想の修正等

(1) 通期(平成20年5月1日～平成21年4月30日)の業績予想について

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	20,500百万円	110百万円	260百万円	140百万円
今回修正予想(B)	20,500百万円	60百万円	180百万円	60百万円
増減額(B)－(A)	0百万円	△50百万円	△80百万円	△80百万円
増減率	0.0%	△45.5%	△30.8%	△57.1%

(2) 修正の理由

通期の個別業績見通しにつきましては、通期の連結業績見通しの修正と同様の理由により修正するものであります。

以上